

第24回 全国自転車問題自治体連絡協議会総会レポート

去る5月14日、第24回全国自転車問題自治体連絡協議会総会が開催された。第1部総会では全ての認定・議案が承認された。また、功労者表彰などが行われた。続く第2部では、自治体の取組紹介が行われた。翌日の施設見学会と合わせてレポートする。

問題解決に柔軟に取り組める 環境整備を強く求めていく

全国自転車問題自治体連絡協議会
事務局長 八十島護氏（練馬区 土木部長）



会長である前川耀男 練馬区長の代理として八十島護事務局長が登壇し、開会挨拶を行った。

「本日は大変お忙しい中、全国各地から本総会にご参集賜り、ありがとうございます。また、日頃から全自連の活動にご理解とご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます。

全自連は平成4年の設立以来、放置自転車対策を中心に活動してまいりました。また、この間、会員自治体の皆様をはじめ各市区町村が先頭に立ち、積極的な自転車駐車場の整備や放置自転車の撤去などに取り組んだ結果、全自連発足当時は約80万台あった全国の駅周辺の放置自転車が、平成25年には約12万台と大きく減少しました。しかし、未だに多くの市区町村は放



出席者および委任状提出者の合計が120名となり、会員数134名の過半数に達し、総会は成立した

置自転車対策の強化を地元の住民などから求められています。また、自転車利用者のルール・マナー、走行環境の整備、自転車の利活用の促進なども議題となっています。

全自連はこれまで、自転車問題の抜本的な解決を図るために、自転車法改正による鉄道事業者への自転車駐車場の附置義務化や、市区町村が走行環境整備に柔軟に取り組める環境の創出などを、国などへ要望してまいりました。

今後も、全自連は、自転車法が私たちの意向に沿って改正されることを強く求めるとともに、自転車に関わる全ての方々と連携・協働し、自転車問題の解決を図ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします」

施設見学会

「江東区豊洲駅地下自転車駐車場」他

総会の翌日、江東区 土木部 交通対策課 自転車対策係長 石川氏の説明のもと、豊洲駅地下自転車駐車場などの施設見学会が実施された。4月にオープンした同施設は、駐車台数2,000台でオートスロープ付き2カ所に加え、エレベーターも設置さ



オートスロープ付き出入口は2カ所

れている。エレベーターは子供乗せ電動アシスト車などの利用者に重宝されているとのこと。2段式ラックは垂直昇降式で、バネの力で軽く上下動するので誰にでも操作しやすい。また、取っ手にも工夫があり、手が汚れない設計となっている。

さらに、定期利用者については、自転車のフロントフォークにICタグを取り付けることで、場内への入退出ゲートが反応し開閉する仕組み（IHIエスキューブ製）。現在600台ほどの利用となっているが、大型マンション等の建設後の人口増に備えている。指定管理者はサイカパーキング株式会社で、開場時間は始発前30分、終電後30分をカバーする午前4時45分から午前1時15分。

●●●● 自治体の取組紹介 ●●●●

【千代田区】

千代田区 環境まちづくり部 交通施策推進課 課長補佐 遠藤氏により、主に東京駅及び秋葉原駅周辺での放置自転車対策について説明。東京駅については平成19年度以降、中央区や江東区などの臨海部の開発が進んだのと同時に、放置自転車が増加した。平成24年度、都・警視庁・区を中心に、鉄道事業者・地域団体からなる「東京駅周辺放置自転車対策」を発足させ、関係者が役割分担し、対策を実行。平成25年度に大手町側に約250台、平成26年度には八重洲口側に200台の自転車駐車場（中央区）を設置。結果、放置自転車台数は減少し続けている。また、新たな交通手段として、シェアサイクル「ちよくる」に関する取り組みにも言及した。



【江東区】

都市整備局 まちづくり推進課 まちづくり担当係長 小川氏が「臨海部コミュニティサイクル」について説明。平成24年に実証実験を開始。現在は21ステーション（ポート）、自転車は300台（稼働270台）。道路や公園など、目立つ場所にステーションを設置している。この夏を目処に、車両をすべて電動アシスト車に入れ替え、同時に車両管理システムの変更を行うとした。去る3月に東京都、江東区、千代田区、港区、中央区と結んだ協定のもと、相互乗入れ等の実現に向けた検討・協議を進めていくとした（翌日実施した「豊洲駅地下自転車駐車場」施設見学会の様子は別項にて）。



【港区】

港区 街づくり支援部 交通対策担当課長 西川氏による説明。現在、28カ所6,356台分の自転車駐車場を設けている。区立公園地下を利用した駐輪システム（直径8.5m、深さ11.6mの円筒を地下に設置し、1機あたり204台を収容）を、品川駅付近「こうなん星の公園」に5機（1,020台）など採用している。現在、自転車駐車場についてはさらに2カ所の整備を進めていて、それぞれ408台、200台を収容する計画。また、昨年8月31日に開始したシェアサイクルについては、実車を用いて説明。同区には名前を持つ坂が90以上あり、電動アシスト車が重宝する。ホテル等客室数が多く、羽田空港、モノレール、JR等の結節点でもあるため有効だとし、回転率の向上を課題とした。



会場まで実際に乗ってきたというシェアサイクルの実車を前に、仕組みなどを説明

【豊島区】

豊島区 都市整備部 交通対策課長 小野氏により、放置自転車対策について説明。鉄道各線が集中する池袋駅について、平成11年に4,582台を数えた放置自転車は、その後巣鴨駅や大塚駅でも問題に。平成12年に地方税法が改正されたことで、法定外税を検討、そのひとつが「放置自転車対策税」で、撤去自転車の返還者、駐輪場利用者の7割が鉄道利用者であることから、税という形で鉄道事業者に応分の負担を求めようというもの。鉄道5社と協議を重ねた結果、鉄道事業者が具体的かつ大量の協力を得ることを約束（平成18年当時で30億円相当、6,500台以上の駐輪場整備）。その結果、税を廃止。平成11年に14,051台（池袋4,582台）あった放置自転車は、平成26年には854台（池袋267台）に減少した。



DATA | 日時：平成 27 年 5 月 14 日
(総会) | 会場：アジュール竹芝（東京都港区）

PP



フロントフォークのタグにより、ゲートは自動で開閉する



垂直昇降式2段ラックは軽い操作性が魅力。取っ手にも手が汚れないためのこだわりが



電動アシスト車などの重量車利用者に好評のエレベーター



東京メトロ豊洲駅に直結する連絡通路も